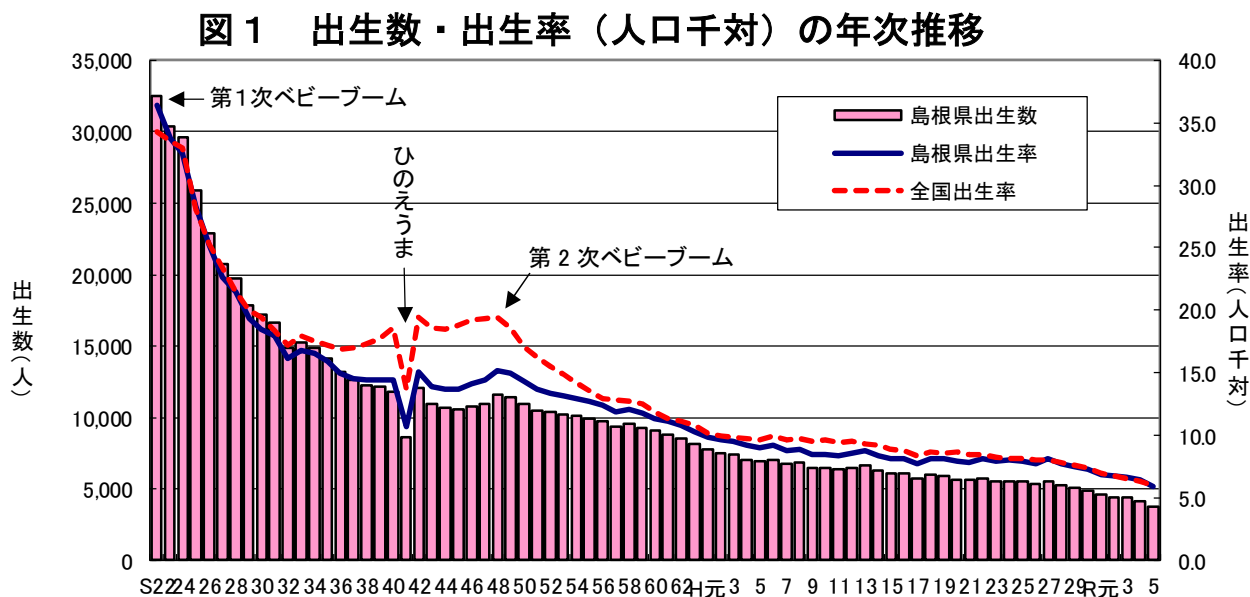


2 出生

(1) 出生数・出生率

令和5年の出生数は3,759人で、前年の4,161人から402人減少し、出生率（人口千対）は5.9（全国第19位）で、前年の6.4を下回った。出生数、出生率ともに昭和46～49年の第2次ベビーブーム以降、ゆるやかな減少傾向が続いている（図1）。



出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、15歳～19歳の階級が前年より増加し、20歳～49歳の各階級では減少した（表2）。

表2 母の年齢（5歳階級）別にみた出生数

母の年齢	出生数				対前年増減		
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	3年－2年	4年－3年	5年－4年
総数	4,473	4,415	4,161	3,759	△ 58	△ 254	△ 402
～14歳	-	-	-	-	-	-	-
15～19	37	35	13	22	△ 2	△ 22	9
20～24	393	341	344	285	△ 52	3	△ 59
25～29	1,304	1,246	1,224	1,070	△ 58	△ 22	△ 154
30～34	1,508	1,568	1,448	1,361	60	△ 120	△ 87
35～39	976	984	894	811	8	△ 90	△ 83
40～44	245	231	227	207	△ 14	△ 4	△ 20
45～49	10	10	11	3	0	1	△ 8
50歳以上	-	-	-	-	-	-	-

出生順位別にみると、令和5年は前年より全順位で減少した（表3）。

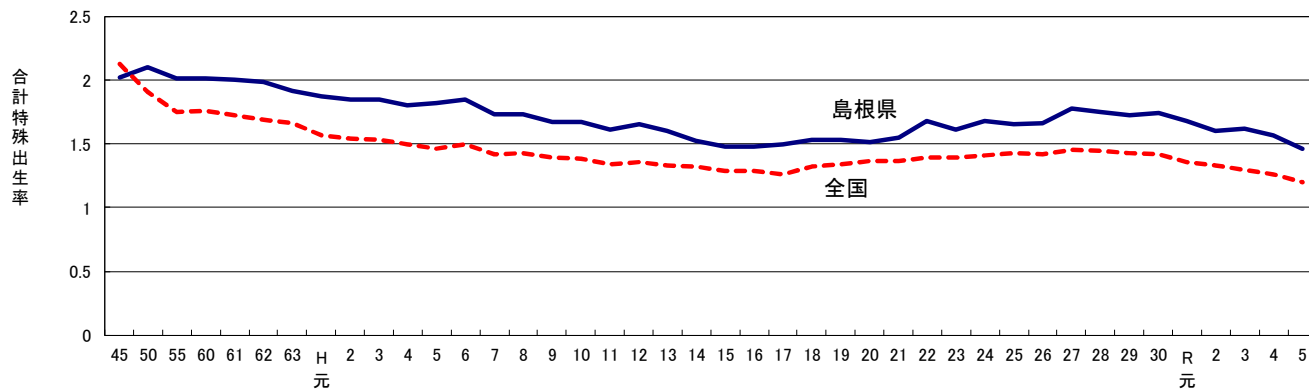
表3 出生順位別にみた出生数の年次推移

出生順位	出生数				対前年増減		
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	3年－2年	4年－3年	5年－4年
総数	4,473	4,415	4,161	3,759	△ 58	△ 254	△ 402
第1子	1,888	1,811	1,686	1,510	△ 77	△ 125	△ 176
第2子	1,563	1,556	1,504	1,405	△ 7	△ 52	△ 99
第3子以上	1,022	1,048	971	844	26	△ 77	△ 127

(2) 合計特殊出生率

令和5年の合計特殊出生率は1.46であった。全国と比較すると、昭和50年以降一貫して島根県が上回っており、令和5年の順位は全国第6位である(図2)。

図2 合計特殊出生率の年次推移



○算出方法

※1 ※2
「(母の年齢別出生数) ÷ (年齢別女性人口)」の15歳から49歳までの合計

※1 (母の年齢別出生数) = (分子): 「人口動態統計」(厚生労働省)

※2 (年齢別女性人口) = (分母): 「推計人口」(総務省、ただし国勢調査年は国勢調査における日本人人口)

母の年齢（5歳階級）別出生率の昭和45年以降の推移を見ると、年により多少の増減があるものの、概ね20歳代では低下傾向、30歳代では上昇傾向にある。令和5年は15～19歳の階級でわずかに上昇し、20～39歳の各階級で下降、40～49歳の各階級で前年と同一の数値となっている（図3）。

図3 母の年齢(5歳階級)別出生率の年次推移

